# JCA NEWS

Japan Communication Association (JCA) Newsletter　日本コミュニケーション学会ニュースレター

CONTENTS


1. 巻頭言 …… 1
2. 私にとってコミュニケーション学とは …… 3
3. 第51回年次大会 …… 5
4. 2021年度 第3回理事会報告 …… 6
5. 学術局からのお知らせ …… 13
6. 事務局報告 …… 15
7. 広報局便り …… 17
8. 支部ニュース …… 19
9. マイページ登録のお願い …… 23
10. 編集後記 …… 23



130
2022.5



日本コミュニケーション学会事務局　〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター 日本コミュニケーション学会事務局
TEL. 03-6824-9372　Email: jcom-post@bunken.co.jp　URL: http://jca1971.com



日本学術会議協力
学術研究団体

# 巻 頭 言

日本コミュニケーション学会会長　高井　次郎　（名古屋大学）

この度は日本コミュニケーション学会の会長として、2018 年４月から今年３月まで（２期）の間、理事の皆さま、会員の皆さまにご支援をいただき、どうもありがとうございました。

就任当時、会長としての抱負のメインは他学会とのネットワーキングを行うことでした。特に、科研の審査領域に「コミュニケーション学」の新設に向けて、国内のコミュニケーション関連学会の連合を形成することが大きなアピールになることを、日本心理学諸学会連合（日心連）の会員であったことからヒントを受けました。この連合は政府に対して強いロビー活動を行い、公認心理師の国家資格制度を実現しています。もちろん、コミュニケーション学では規模がはるかに小さく、大した影響力は発揮できないでしょうが、少なくともわれわれのコミュニケーション研究者の研究費獲得の機会を向上するためには役立つと思いました。そこで、日本コミュニケーション学会設立５０周年の記念大会において、宮原哲先生のお力でパネルに日本マス・コミュニケーション学会、日本ヘルスコミュニケーション学会、多文化関係学会、異文化コミュニケーション学会の会長級の代表者にお集まりいただき、合同活動の可能性を探りました。これをきっかけに、今後新会長のもとで、他学会との連携を深めていただき、数による力を増していければ幸いです。

もう一つのビジョンとして当初あったのは、JCA の国際連携の強化です。具体的な成果があったとは言えませんが、2018 年に Asia-Pacific Communication Alliance（APCA）の創設会議にお招きいただき、アジア環太平洋地域の主要コミュニケーション学会の連合の創立に日本コミュニケーション学会の代表として参加させていただきました。中国、韓国、オーストラリアをはじめ、この地域のコミュニケーション学者とそれぞれの国のコミュニケーション学の実情について共有し、活発な意見交換ができました。その際に実感したのは、時代の進化とともに、われわれの学問は ICT やデジタルコミュニケーションに移行している一方で、JCA の性格はまだ従来のコミュニケーションにこだわっていることです。コロナ禍に

より、デジタルコミュニケーションの重要性が鮮明になり、わが学会のパラダイムシフトも近いうちに起こると予想できます。

一方で、会長として実現できなかった大きな目標は、会員の増員です。年々会員数が減少する一方で、新規会員の開拓には十分力を発揮できなかったことを大いに反省しております。特に、若い研究者に魅力を感じていただける学会の改変策についての検討を、より積極的に行うべきでした。JCA 会員層の高齢化が目立つ中、大学院生など若手研究者の勧誘がこの学会の繁栄に結びつくだけに、大きな課題を残したまま退任することになってしまい、このことについては会員の皆さまのご期待に沿えず、大変申し訳なく思っております。

今考えてみると、会長４年間の任期のうち、その半分はコロナ禍の対応に悩まされていました。ただ、一つ大きなメリットもあり、それは理事会のみならず、大会をオンラインで開催できるようになったことです。これまで理事の皆さまには大きな金銭的・時間的負担をおかけし、年３回の理事会を開催しておりました。それがコロナ禍により、全国から東京に集まる必要性がなくなり、ご自宅からお気軽に会議に参加できるようになりました。また、さすがにコロナ禍当初の大会の開催は見送りましたが、２年目昨年は本学会初となるオンライン大会、しかも５０周年記念大会を Zoom において開催し、歴代最多の参加者数を記録しました。小山哲春年次大会実行委員長と守﨑副会長をはじめ、関西支部の大会実行委員の皆さまのご尽力をもって、JCA の底力を感じました。本年度の大会も、関西の先生方を見倣い、大会実行委員長として中部支部の皆さまのお力を借りてオンライン大会を６月４日から５日に開催いたします。おかげさまで、会員による発表申込数が例年の 1.5 倍となり、これもオンライン開催の恩恵であると思います。

最後になりますが、1987 年に日本コミュニケーション学会の会員になってから、20 年以上にわたって理事として参加させていただいております。学会の運営の貴重な経験を得る機会を与えていただき、また会長としての JCA 会員の皆さまに心から感謝いたします。日本コミュニケーション学会のますますのご発展を心より祈念し、今後は一会員として微力ながら貢献させていただく所存です。２期にわたっての理事の皆さま、会員の皆さま、暖かいご支援・ご協力、誠にありがとうございました。

# 私にとってコミュニケーション学とは：未知との邂逅

京都大学医学研究科 社会健康医学系専攻
医学コミュニケーション学 分野　准教授
岩隈　美穂

2008 年に京都大学医学研究科に着任したとき、最初の仕事の一つが准教授は通常出席しない医学部教授会での挨拶だった。見渡す限り男性医学部教授ばかりの大会議室で（実際はその当時女性教授が 1 人いたそうだが）着任の挨拶をしながら、「ここは異文化…」と感じていた。

**コミュニケーション学に関わる研究領域との出会い**

大学時代にコミュニケーションに出会い、卒業時日本ではまだ大学院で学べなかったので、米国オクラホマ大学に留学した。そして博士課程を視野に入れて自分の研究テーマを探しているとき、D.ブレイスウエイトの障がい者とのコミュニケーションは異文化コミュニケーションである、という論文に出会った。車いす使用者であることをネタに博士論文を書いていいのか、と気が付いたことはブレイクスルーだった。それ以来これまで経験してきたことを反芻しながらいくつか研究の芽を見つけてきた。また同時期に出会った「障害学」は、カリフォルニア大学バークレー校、カナダアルバータ大学での 2 つのポスドクの機会を与えてくれ、現在いる医学医療福祉の領域への橋渡しをし、そしてコミュニケーション研究の拡張を促した。

現在私が所属している研究科では、同僚や学生たちはほとんど医療系のバックグラウンドで、非医療系である私からすると「医学の先輩」であり、彼ら・彼女らとのコミュニケーションは異文化コミュニケーションに近い。そして「コミュニケーション」は医療者にとってパワーワードである。ただその関心の高さは、「効率的・効果的でよいコミュニケーションをとりたい」「（多くの場合、患者を）説得する・行動変容させる」ためのツールとしてコミュニケーションに熱い期待を寄せているようである。

**今現在、コミュニケーション学に関わる研究領域にどのように携わっているか**

「病の語り」国際比較研究

現在 DIPEx の「病の語り」国際比較研究に取り組んでいる。DIPEx とは、患者の語りを集めデータベース化している国際団体で、2020 年からは共通のインタビューガイドをもとにして、「COVID-19 の語り」を DIPEx 参加国で収集している。質的研究の国際比較は、一人で行う研究とは違う難しさもあるが、「COVID-19 を各国がどのように体験したか」は、「疾病」と「病」の違いというパブリックヘルス領域の重要なテーマであり、Qualitative Research in Health というジャーナルの特別号に掲載予定である。そして「語り」は社会資源であり広く知ってもらうため、年末ごろ DIPEx の HP で公開予定である。

混合研究法による「障がい者研究」

「障がい者研究」では、最近は混合研究で取り組んでいる。一つ目はビックデータである「Yahoo!知恵袋」への投稿を活用して、質問・回答内容を計量テキスト分析（テキストマイニングのような手法）によって分析し、障害（者）に関する情報ニーズを探索的に調べている。二つ目の「障がい者の高齢化」プロジェクトでは、全国脊髄損傷者連合会や医師との協働でアンケート調査と聞き取り調査を組み合わせ、身体機能だけでなく、地域での活動、人とのつながりといったコミュニケーション要因と障がい者（に限った話ではないが）のエイジングに関して研究を進めている。

**ハイブリットでいこう！**

コロナ禍ですっかり浸透した「ハイブリット」だが、研究でも推奨したい。コミュニケーション x 障害学、コミュニケーション x 医学、質的研究 x 量的研究、というように、ほかの分野・方法と掛け合わせることで、ほかにはない自分軸の視点を持つことができた。そして掛け合わせるのは周辺領域より、なるべく真逆なほうが「未知との邂逅」で思わぬ化学反応がおきるのでお勧めである。

**自分の弱みを強みに反転させる**

障害を持たなければ、勉強は特に好きでもなかったので（本好きではあったが）、大学に行こうとは思わなかったし、その先の留学もなかった。研究者は強い陰性感情や他者と違う部分を反転させて、研究という社会資源に昇華させていくことができる希少な職業だと思う。自分の弱さの中にもしかしたら「宝の山」があるのかもしれない、という言葉を皆さんに送り（遅くなってしまった）この原稿を終わりたい。

# 第 51 回年次大会

学術局長　小西　卓三

第 51 回年次大会は、2022 年 6 月 4 日（土）、6 月 5 日（日）の 2 日間、昨年と同様に完全オンラインで開催されます。高井次郎先生をはじめとする中部支部の皆様方、学術局の日高勝之先生、菅野遼先生、事務局の松島綾先生、宮脇かおり先生、広報局の松本健太郎先生にはご尽力いただいていることを心より感謝申し上げます。

さて、今回のテーマは「危機とコミュニケーション」です。2020 年から続くコロナ禍、それによって引き起こされた感染拡大の抑制と社会経済活動の両立をめぐる政策的混乱や国民選挙といった政治的諸問題、コロナ禍の中で強行開催された東京オリンピック・パラリンピックや急激な円安など、様々な局面において危機と考えてよい状況が続いております。世界情勢においても、ロシアのウクライナへの侵攻やそれを受けた国際的な制裁という世界秩序の揺らぎを目にする事態となっております。このような状況にあって、2022 年度の年次大会では「危機」を鍵語とし、コミュニケーションとの接点を検討するテーマを設定しました。

1 日目の基調講演では、近現代日本政治思想史の第一人者である先崎彰容先生（日本大学危機管理学部教授）に「危機・人間・共同体―令和日本のデザイン―」というタイトルで基調講演をお願いし、コロナ下での政治をはじめとする様々な課題や問題点を、近現代日本史の歴史的な視点、コミュニケーションとの接点や関連性も踏まえてお話を頂きます。その直後に開催されるシンポジウムは「危機とコミュニケーション」というテーマで、先崎先生の基調講演を踏まえつつ、学術副局長の日高勝之(立命館大学）の司会進行のもと、師岡淳也先生（立教大学）、福本明子先生（愛知淑徳大学）という、コミュニケーションと政治や文化との接点について考察してこられた方々による議論を、「会場」の方々を交えておこなってまいります。

そのほか、コミュニケーション理論研究会によるパネル、大学院生の発表に個別レスポンデントによるコメントのあるパネル、古典的コミュニケーション理論の現代の有用性を問うパネルなど、多彩なプログラムが用意されております。過去 2 年ほど学術をめぐる状況を、一つの危機としてとらえることも可能かもしれません。しかしながら、知の産出、知のネットワークやインフラの創出・維持に学会の年次大会という口頭コミュニケーションが果たす役割は、依然として大きいと考えられます。オンラインという移動負担を伴わない形態での開催となりますので、一人でも多くの方にご参加いただき、会員同士の知的交流を深めていただけたいと願っております。

# 2021 年度 第 3 回理事会報告

日時：2022 年 3 月 20 日(日)13 時～16 時 30 分
会場：オンラインでの開催

上記日程・会場において、2021 年度第 3 回理事会が開催された。会長、副会長（2 名）、理事 16 名の出席により理事会は成立した。

【会長挨拶】

今回が会長としての最後の理事会となります。4 年間の任期を支えてくださったみなさまに感謝申し上げます。会長として至らないところも多く、みなさまには忍耐を強いてしまったのではないかと思います。任期の半分は新型コロナに足を引っ張られることになりましたが、みなさまのご尽力のおかげで 50 周年記念大会も盛況のうちに終えることができました。こうした状況に対応できる本学会組織の高い対応能力と強さを実感いたしました。

今回の理事会では、新役員体制についての審議がございます。今期で任期満了となる理事のみなさまには改めて感謝申し上げます。また、引き続き運営に携わってくださる理事のみなさま、どうぞよろしくお願いいたします。

【審議事項】

【1】新役員体制について（高井）

資料にもとづいて次期役員案が示された。任期（2 期）満了に伴う新任役員は次の通りである（所属は理事会時のもの）。

会長：守﨑誠一（関西大学）
副会長（学術担当）：小山哲春（京都ノートルダム女子大学）
副学術局長（ジャーナル担当）：内藤伊都子（東京福祉大学）
理事（企画担当）：高井次郎（名古屋大学）
理事（渉外担当）：五島幸一（愛知淑徳大学）
理事（理事会運営担当）：宮原哲（西南学院大学）
理事（北海道支部長）：未定　※後日、支部長選挙によって水島梨紗氏（札幌学院大学）が選出された。
理事（東北支部長）：會澤まりえ（尚絅学院大学）
理事（中部支部長）：毛利雅子（名古屋市立大学）

このうち、新たに設置した「理事（理事会運営担当）」は役員選挙の導入検討を担当する。また、上記以外の役員については留任（再任）となる。審議の結果、これらのことが承認された。

## 【2】第 51 回年次大会関連

### 1. 学術局

（1）2022 年度年次大会の投稿数と採択数（小西）

投稿は 15 件あり、すべて採択という案が示された。審議の結果、承認された。

（2）2023 年度年次大会の場所（小西）

2023 年度年次大会について、具体的な開催場所（少なくとも方針）を審議しておく必要があるとの提案があった。これを受けて、高井会長より、立教大学での開催を打診・検討中であるとの説明があった。審議の結果、2023 年度年次大会は立教大学での開催を目指して調整を進めることになった。

（3）年次大会発表公募・締め切り・採否連絡の検討（小西）

現状の問題点として次の 2 点が示された。

1）2 月 1 日締め切りの場合、ニュースレターによる告知が 1 度しかできない。

2）理事会が 3 月下旬なので、締め切りから発表許可まで時間がかかる。

続いて、これらの解決方法として次の案が示された。

提案：締め切りは 2 月 1 日のまま変えず、採否連絡を前倒しにする。

：採否連絡のため理事会の早期開催、またはメール審議による審議・承認が必要。

：ニュースレターの告知は 1 回、HP とメーリングリストで告知する。

審議の結果、第 3 回理事会の開催目安を 2 月～3 月中旬へと早めることになった。

（4）そのほか、年次大会について（小西）

―大会参加費を有料とするか、無料とするか

2022 年度年次大会の大会参加費を有料とするか無料とするか、審議が必要であるとの説明があった。宮脇副事務局長から、2021 年度は年次大会のみで 11 万円の赤字だったことが報告され、今後も参加費無料が続くと学会運営に支障をきたすことになるとの説明があった。

審議の結果、2022 年度年次大会の大会参加費は有料（会員・非会員ともに 2,000 円）となった。

―ポスター作成を 2021 年度のように大学院生（非業者）に依頼するか

年次大会のポスター作成を業者に依頼するか、2021 年度に引き続き非業者に依頼するか、審議が必要であるとの説明があった。審議の結果、引き続き非業者（大学院生）に依頼することとなった。

―基調講演の書き起こしを、昨年度のように予算立てしていただくか

基調講演の書き起こし費用（書き起こしたものはジャーナルに掲載）を予算に組み込むことについて審議が必要であるとの説明があった。事務局から示された予算案と併せて審議された結果、この書き起こし費用を来年度予算に組み込むこととなった。

―基調講演、シンポジウムは名古屋で行って配信するのか、それともそれぞれの自宅・職場などでおこなうのか

基調講演者とシンポジウムの登壇者が、自宅や研究室から参加・配信することを許可するかどうか審議が必要であるとの説明があった。審議の結果、基調講演者とシンポジウムの登壇者には、自宅や研究室から参加・配信していただくよう依頼することとなった。

## 【3】各局

### 1. 事務局

(1) 2022 年度業務委託契約について（松島）

資料にもとづいて、来年度も国際文献社との契約を継続するとの説明があった。併せてその契約内容についても説明があり、「会員原簿訂正」を月額へ切り替えることで業務改善を図った（費用も若干削減）とのことであった。審議の結果、承認された。

(2) 2022 年度予算案について（宮脇）

資料にもとづいて来年度予算案に関する説明があった。審議の結果、承認された。なお、2021 年度からの大きな変更点は次のとおりである。

―収入の部：年会費（2,850,000 円）は会員数減少に伴い保守的に見積もった。
：年次大会関係費の大会参加費（126,210 円）は、先述の決定に伴って参加費 2,000 円で算出した。

―支出の部：ジャーナル発行費（800,000 円）は発行部数を 350 部に戻して算出した。これは 2021 年度に 300 部へと減らしたところ不足・追加発行が発生したためである。
：学術事業費に基調講演の書き起こし費として 45,074 円を新たに加えた。これは先述のように学術局からの提案でもある。
：支部活動助成金（225,000 円）は支部からの申請額にもよる。各支部における活動費が少なくなったときに助成金の申請をすることになっている。
：予備費において、若手サポート助成金（40,000 円）を準備している。大会参加費の一部補助に使用するという案が出ていたが、詳細は未定である。

(3) オンライン審議の記録と NL での周知について（松島）

まず、これまでワーキンググループなど理事会以外でのオンライン審議が会員に伝えられてこなかった旨の説明があった。これを改善するために、今後は理事会以外での審議記録を NL で周知する旨の提案がされた。審議の結果、承認された。

(4) 会長・理事選挙に関するワーキンググループ立ち上げについて（松島）

これまで会長・理事の選出についてはその結果のみが会員に周知されてきた。このことについて会員サービス向上と理事会の透明性を高めるという観点から、まずはワーキンググループを設けて選挙の導入について議論し、もし導入が決まればその実施方法を検討することが提案された。審議の結果、承認された。なお、ワーキンググループのメンバーは次のとおりである（敬称略）。

宮原（担当理事）、守﨑、高永、松本、松島、宮脇、脇
＊後日、ワーキンググループのオンライン会議により、守﨑新会長はワーキンググループから外れることが決定した。また、小西理事が新たにワーキンググループに加わった。

## 2. 学術局

### （1）ジャーナル関連（大橋）

―学会賞について

学会賞について「論文の部：受賞該当論文なし、書籍の部：応募なし」との説明があった。審議の結果、承認された。

―投稿規程第 15 条の改定

投稿規程第 15 条「著作権および版権」について改定案が示された。改定の趣旨は、「版権」という用語が現状に合わなくなったことと、著作権の扱いをより明記することにある。審議の結果、すべて承認された。

旧：第 15 条 (著作権および版権)

掲載された論文･記事の著作権は著者に、版権は当学会に属する。著者はまた、当学会による当該論文の電子化および公開(委託を含む)を承諾するものとする。本学会誌に掲載された論文等を他の出版物･媒体で公刊する場合には、あらかじめ文書により担当理事の承認を得なければならない。

新：第 15 条 (著作権および版権)

掲載された論文・記事の著作権は本学会に属する。また、論文・記事の作者は、当学会による当該論文の電子化および公開（委託を含む）を承諾するものとする。本学会誌に掲載された論文等を他の出版物・媒体で公刊する場合には、あらかじめ文書により当学会担当理事の承認を得なければならない。論文・記事の作者は、著作者人格権を行使しないことに同意する。

―学会誌の発行時期変更について

現在の学会誌発行時期（第 1 号を 11 月、第 2 号を 5 月に発行）について発生しうる問題が指摘された。その主旨は、博士論文の審査要件として年度内での掲載決定が求められる場合もあり、年度を跨いだ発行スケジュールでは投稿しづらいのではないかということであった。

問題の解消のために次のような変更案が示された。審議の結果、すべて承認された。

・第 51 巻第 1 号から第 53 巻第 2 号まで、発行日と投稿締め切り日を段階的にずらしていき、第 54 巻第 1 号以降は発行を毎年度 9 月と 3 月（同一年度内 2 回発行）とする。そのため、投稿締め切りを毎年 11 月末日と翌年の 5 月末日とする（学会の年次大会の基調講演の論考は 3 月末日に発行する号に掲載する）。

・但し、現在査読中の第 51 巻第 1 号への投稿論文がいずれも査読を通らなかった場合は、第 51 巻第 1 号の発行を（2022 年 11 月末日ではなく）2023 年 5 月末日とし、以降 5 月に発行する号を第 1 号、11 月に発行する号を第 2 号とする。

【報告事項】

【1】第 51 回年次大会関連

1. 学術局

（1）基調講演者、シンポジウムについて（小西）

基調講演は先崎彰容氏（日本大学危機管理学部）に依頼し、ご快諾いただいたとの報告があった。また、シンポジウムへのご登壇と、基調講演とシンポジウムの公開についてもご承諾いただいた旨の報告があった。

（2）運営について（小西）

大会プログラムについては学術局と中部支部とで検討を進めることが報告された。併せて、司会など大会運営へのご協力をお願いしたいとのことであった。

【2】各局

1．事務局

（1）入退会者報告（松島）

資料にもとづいて、会員数と入退会者の確認について報告があった。2022 年 3 月 2 日時点での会員全体数は 327 名（一般会員：314 名、学生会員：12 名、準会員：1 名）との報告があった。

（2）非会員（入会手続き中）によるジャーナル投稿への対応について（松島）

2022 年 1 月中旬に非会員の方からジャーナル投稿の意志が示された。本来であれば入会手続きを完了したうえで投稿しなければならないが、理事会の承認（2 月初め）を待っていてはジャーナルの締め切り（1 月末）に間に合わないという状況であった。投稿希望者からの問い合わせを受けて会長・副会長とも協議した結果、「入会手続きとジャーナル投稿手続きを並行して進めることを認める」という特別対応を採った。

2．学術局

（1）ジャーナル関連（大橋）

大橋副学術局長より、今後のジャーナル発行について次のような報告があった。

―『日本コミュニケーション研究』第 50 巻第 2 号は、「日本コミュニケーション学会第 50 回年次大会記念特集号」として 5 月末に発行予定。なお、投稿論文で査読を通ったものがなかったため研究論文の掲載はない。

―『日本コミュニケーション研究』第 51 巻第 1 号は、投稿論文 2 編あり現在査読中である。

（2）その他（小西）

内藤運営委員の後任として、大橋理枝氏（放送大学）が運営委員となることが報告された。

## 3．広報局

（1）ニュースレター128 号・129 号の発行とニュースレター130 号の予定（今井）

ニュースレター128 号（2021 年 11 月号）、129 号（2022 年 2 月号）が発行されたとの報告があった。また、次号となる 130 号は 2022 年 5 月に発行予定とのことであった。

（2）HP への掲載情報（宮崎）

以下の情報（前回理事会以降、22 件）が学会 HP【ニュース】に掲載されたとの報告があった。

・2022 年 03 月 08 日【ニュース】SOLVE for SDGs (社会的孤立枠)　2022 年度提案募集に向けた公開ワークショップのご案内(3/29(火))
・2022 年 02 月 24 日【ニュース】3 月 8 日（火）9 日（水）2021 年度 JCA 北海道支部からのお知らせ
・2022 年 02 月 14 日【ニュース】3 月 5 日（土）2021 年度 JCA 中部支部大会のお知らせ
・2022 年 02 月 09 日【ニュース】3 月 5 日（土）関西支部春季研究会のお知らせ
・2022 年 02 月 09 日【ニュース】教員募集のお知らせ（慶応義塾大学）　2022 年 4 月 21 日（木）16:00 必着
・2022 年 01 月 27 日【ニュース】ニュースレター129 号を発行しました
・2022 年 01 月 25 日【ニュース】教員募集のお知らせ（茨城大学）　2022 年 4 月 8 日　（金）必着
・2022 年 01 月 21 日【ニュース】教員募集のお知らせ（武蔵野大学）2022 年 2 月 19 日（土）必着
・2022 年 01 月 16 日【ニュース】2022 年度　第 51 回年次大会応募書類
・2021 年 12 月 13 日【年次大会案内】第５１回年次大会（２０２２年６月４日（土）・５日（日）オンライン開催）のお知らせ
・2021 年 12 月 04 日【ニュース】『九州コミュニケーション研究』第 19 号発行のお知らせ
・2021 年 12 月 02 日【ニュース】「ＮＨＫ番組アーカイブス学術利用トライアル」2022 年度前期公募のお知らせ
・2021 年 11 月 01 日【ニュース】『日本コミュニケーション研究』第 51 巻第 1 号の投稿募集を開始しました
・2021 年 11 月 01 日【ニュース】ニュースレター128 号を発行しました
・2021 年 11 月 01 日【ニュース】11 月 27 日（土）・28 日（日）異文化コミュニケーション学会（SIETAR JAPAN）第 36 回年次大会オンライン開催のお知らせ
・2021 年 10 月 28 日【ニュース】11 月 5 日（金）中部支部イブニング研究会開催のお知らせ
・2021 年 10 月 25 日【ニュース】11 月 6 日（土）九州支部大会開催のお知らせ
・2021 年 10 月 22 日【ニュース】専任教員公募のお知らせ（昭和女子大学）11 月 22 日（月）必着
・2021 年 10 月 13 日【ニュース】教員公募のお知らせ（西南学院大学）2022 年 1 月 7 日（金）17 時締切
・2021 年 10 月 07 日【ニュース】11 月 13 日（土）2021 年度関西支部大会のお知らせ（11/8 更新）
・2021 年 10 月 04 日【関連学会等案内】日本マス・コミュニケーション学会　2021 年秋季大会および 70 周年記念国際シンポジウム開催のお知らせ

・2021 年 10 月 01 日【ニュース】「2022 年度 米国人フルブライト招へい講師」 受け入れ大学募集開始のお知らせ

また、学会 HP【リンク集】ページに新しい支部 HP の URL、関連学会の URL が掲載されたとのことであった。

（3）ML／Twitter での情報発信（松本）

HP 掲載情報のうち、会員向けに共有すべきものに関しては ML にて配信をおこなっている（前回理事会以後 31 件）との報告があった。また、HP 掲載情報、およびそれ以外の情報（会員の新刊情報等）を含め、学会公式 Twitter をつうじて発信をおこなっている（前回理事会以後 10 件）とのことであった。

（4）旧サーバからのホームページ移行状況について（松本）

支部ホームページを新サーバ上へ移設する作業を完了したとの報告があった。新しい URL は以下の通りとなる。

—東北支部
http://tohoku.jca1971.com/
—中部支部
http://chubu.jca1971.com/
—関西支部
http://kansai.jca1971.com/
—九州支部
http://kyushu.jca1971.com/

## 【3】各支部報告

各支部報告を参照。

## 【4】その他

（1）コミュニケーション理論研究会（松島）

2022 年 2 月 18 日に、松本会員を話題提供者としてゲーミフィケーションに関する議論を行った。これが初の公開研究会であり、今後も公開研究会を定期的に実施予定である。次回は非公開形式で 2022 年 5 月に開催予定である。

## 【5】次回理事会開催日時・会場

オンライン開催。5 月 21 日・22 日・28 日・29 日を候補として後日調整する。

# 学術局からのお知らせ

## ジャーナルに関するお知らせ

『日本コミュニケーション研究』(*Japanese Journal of Communication Studies*)の第50巻第2号が5月末に発行されます。今回の学会誌は「日本コミュニケーション学会50周年特別号」と銘打ち、2021年6月12日・13日に開催された日本コミュニケーション学会第50周年記念年次大会の基調講演やシンポジウムの論考を掲載しています。

また、第51巻第1号の投稿が本年1月末に締め切られ、2本の論文が投稿されました（新規投稿のみ）。この先、同一巻の第1号と第2号を同一年度内に発行できるように調整していきたいと考えています。発行時期や形態が若干例外的な形になることもあると思いますが、何卒ご了承下さい。

加えて、現在次の巻号への投稿論文を募集中です。締め切りは2022年7月末日ですので、是非皆様の研究結果を論文としてご投稿ください。投稿は、ワード等で作成された「論文」、「シノプシス」、「ファイル作成に使用した機種を加えた著者情報」、の3つのファイルを添付ファイルとして、指定メールアドレスに送付するという形でお願い致します。執筆・投稿の詳細は、公式ホームページにある「研究論文集投稿規程」「学会誌執筆要領」を参照してください。投稿される際、ジャーナル専用アドレスに加え、編集委員長のメールアドレスにも「CC:」にて送付してください。なお、今回から編集委員長が内藤伊都子に代わり、投稿時に送付して頂くメールアドレスも変わります。

メールアドレスは以下の通りです。

To: journal[@を入れる]ml.jca1971.com
CC: itnaito[@を入れる]ed.tokyo-fukushi.ac.jp

上述したメール投稿で受領の返信がない等の不具合、また、ジャーナル投稿に関するその他のお問い合わせは、ジャーナル担当の内藤（itnaito[@を入れる]ed.tokyo-fukushi.ac.jp）までご連絡ください。可能な限り迅速に対応致します。皆様のご投稿を心よりお待ち申し上げております。

## 2021年度ジャーナル 『日本コミュニケーション研究』掲載論文*

『日本コミュニケーション研究』第50巻 第1号（令和3年11月発行）

研究論文：

伊藤倫「無愛想印象尺度の作成：幸福感・共感性・自尊心との関連性の検討 」

Simon PERRY, “Institutional Objections to Non-native English-speaking Language Teachers Using Hybrid Language Policies”

『日本コミュニケーション研究』第50巻 第2号（令和4年5月発行） 日本コミュニケーション学会50周年特別号

特別企画：第50回日本コミュニケーション学会年次大会基調講演

丸幸弘「分断の時代に求められるサイエンスブリッジコミュニケーション」

日本コミュニケーション学会50周年記念年次大会シンポジウム「コロナ禍とコミュニケーション」

清宮徹「コロナ禍とコミュニケーション：組織コミュニケーションの視座から危機を考える」

青沼智「コロナ（禍）とコミュニケーション：レトリック・議論研究からの考察」

塙幸枝「コロナ禍と対面コミュニケーションのゆくえ：リモート・コミュニケーションにおける感覚モダリティの変容」

日本コミュニケーション学会50周年記念シンポジウム

宮原哲「コミュニケーション学のこれまで・これから：近隣学会との位置関係を確かめ、共に進むため」

## 学会賞の選考結果について

去る2022年3月1日～4日にメール審議にて学会賞の選考委員会を開催し、2021年度の学会賞について検討しました。今回は書籍の部への応募がなかったため、論文の部のみの審査となりました。その結果、今回は該当なしとすることに決まりました。

これからも『日本コミュニケーション研究』を積極的に盛り立てて頂けますよう、皆様のご協力をお願い申し上げます。

（旧副学術局長：ジャーナル担当　大橋理枝・
新副学術局長：ジャーナル担当　内藤伊都子）

* 2021 年 5 月に発行された Newsletter 127 に於いて、この部分に誤りがありました。「2019 年度」と記されていましたが、正しくは「2020 年度」でした。お詫び申し上げますと共に、この場をお借りして訂正させて頂きます。

# 事務局報告

事務局からのご報告とお願い

1. 2022年度年会費の請求について
　2022年度の年会費は4月下旬に請求書を発送しておりますが、学生会員・準会員の会員の方は、7月の申請締め切り後の請求書発送となります。

2. 会費滞納による除名とジャーナル受け取りの権利について
　過去3年間の会費がすべて未納の場合には、会則第12条および内規6に従い、特別な理由がない限り除名となります。また会則内規5に従い、前年度の会費が未納の場合にはジャーナルをお送りすることができませんのでご了承ください。

3. 会費納入状況の確認について
　会費の納入状況が不明の場合には事務局までお問い合わせください。事務局のメールアドレスは、jcom-post[@を入れる]bunken.co.jp　です。納入状況をご確認の上、下記の郵便振替口座にお振込みいただくこともできます。なお、振込手数料は各自のご負担にてお願いいたします。

　　郵便振替口座番号 00160-2-603688
　　口座名義　　日本コミュニケーション学会
　　（銀行口座からお振込の場合）
　　ゆうちょ銀行（9900）
　　〇一九（ゼロイチキュウ）店（019）
　　当座 0603688
　　ニホンコミュニケーションガッカイ

※海外在住などで振込が困難な方はクレジットカードでの会費支払いにも対応いたします。詳しくは事務局までお問い合わせください。

4. 学生会員・準会員登録申請について
　学生会員（大学院生対象）、準会員（学部生対象）として登録するには、登録申請が毎年必要です。既会員の申請期限は7月末日です。申請書のフォームは学会ホームページの「会員各種手続き」よりダウンロードし、学生証等のコピーを添付して郵送で事務局までお送りください。事務局の住所は次の通りです。

　　〒162-0801　東京都新宿区山吹町358-5　アカデミーセンター
　　日本コミュニケーション学会事務局

5. 年次大会総会はがきについて
　4月下旬に年次大会の総会葉書を送付いたします。必要事項をご記入の上、期日までに返送いただきますようお願いいたします。

6.　マイページの利用開始について

ホームページ上の「マイページ」（会員情報管理システム）が利用できるようになっております。マイページでは「会費納入状況の確認」「会員情報の検索」「会員情報の変更・確認」などができます。マイページへのアクセスに必要なIDとパスワードは、年会費の請求書と一緒にお送りしております。「お振り込みに関するご注意」の欄に〈マイページのご案内〉がありますのでご覧ください。もしこの用紙を紛失なさった場合には、日本コミュニケーション学会事務局（以下「学会事務局」とする）までお問い合わせください。

問い合わせ先： 日本コミュニケーション学会事務局
jcom-post[@を入れる]bunken.co.jp

7. 住所等変更届のお願い

住所や所属が変更になった場合には次のいずれかの方法で手続きをしてください。

（1）日本コミュニケーション学会HPにある「マイページ」にアクセスし「会員情報の変更」を選択して必要事項を更新してください。メールアドレスの更新も「会員情報の変更」内で行うことができます。

（2）学会事務局までメール、郵送、ファックスのいずれかでご連絡ください。

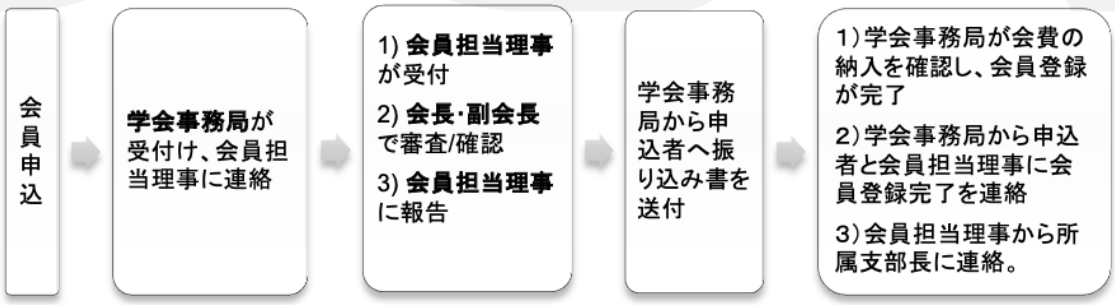
8. ジャーナルバックナンバー、記念図書の購入申込みと閲覧・複写申込み

これまで発行されたジャーナルバックナンバーなど学会発刊物を購入されたい場合は、学会事務局にお問い合わせください。また、科学技術情報発信・流通総合システムJ-STAGE（https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja/）あるいは国立情報学研究所の論文情報ナビゲータCiNii（http://ci.nii.ac.jp/）やCiNii Research（https://cir.nii.ac.jp/?lang=ja）にも論文が掲載されており、閲覧・印刷することができますので、こちらも是非ご利用ください。同サービスを利用せずに複写をご希望の場合は、学会事務局までお問い合わせください。

9. 新規会員の手続き

JCAでは新しい会員を随時受け付けています。次頁のような流れで、新規会員の手続きを行います。ご不明な点がありましたら、学会事務局までご連絡ください。皆様のご協力をお願い申し上げます。皆様のご協力をお願い申し上げます。

【会員申込から会員登録完了までの流れ】



# 広報局便り

1．新刊情報提供のお願い

広報局としては、会員の皆様の新刊情報を学会公式 Twitter および ML で発信・配信していきたいと考えております。自薦、他薦を問わず、新刊のご著書に関する情報をお寄せいただきたく、お願い申し上げます。ぜひ、ご検討ください。

※学会ホームページに記載されている「基本方針」に合致しないものに関しては、学会公式 Twitter 等での発信をお断りする場合がございます。ご了承下さい。

http://jca1971.com/keynote

2．広報局からのお知らせ

① 広報局では ML をもちいて、学会 HP における掲載情報を中心に会員の皆様あての情報配信をおこなっております。それらが届いているかをご確認いただいたうえで、もし不達の場合には、JCA ニュースレター今号 23 ページのご案内を参照いただき、マイページへの登録手続き／メールアドレスの更新をお願いいたします。

② 広報局では各支部や各研究会の情報、他学会や教員公募などの情報も、ホームページにアップロードしております。ぜひ、情報をお寄せください。

③ 皆様からも、国内だけでなく、海外の学会を含めて関連する講演会や研究会があれば情報として広報局までご一報下さい。ホームページにアップロードしたいと思います。

④ ホームページ（http://jca1971.com/）は、適宜更新しております。ご意見やご質問を頂ければ幸甚です。

3．支部ホームページの新サーバへの移行完了のご報告

これまで旧サーバ上で稼働していた支部ホームページですが、関係する皆様のご協力を得て、東北支部、中部支部、関西支部、九州支部のものに関しては新サーバへの移設作業を完了しました（なお、昨年度末をもって、旧サーバの管理会社との契約は打ち切りとなっております）。学会公式ホームページのリンク集（http://jca1971.com/link）から、ご覧いただけます。

（広報局長　松本健太郎）

# JCA ニュースレターへのご寄稿のお願い

日本コミュニケーション学会では、ニュースレターへの会員の皆様のご寄稿を募集しております。
以下の要領で奮ってご寄稿ください。宛先：今井達也 (imatatsu.jca[@を入れる]gmail.com)

① 著書紹介
会員の皆様の著書を紹介するコーナーです。自薦、他薦を問わず、会員の皆様の著書をご紹介ください。
和文・英文で１枚程度（A4）の原稿を受け付けております。

② コラム：コミュニケーション教育
コミュニケーション教育に関する実践報告、事例紹介、展望、論考、その他のエッセイを受け付けています。
和文・英文で１枚程度（A4）の原稿を受け付けております。

③ 書評
コミュニケーションおよび関連領域の著書に関する書評を受け付けております。
和文・英文で１枚程度（A4）の原稿を受け付けております。

④ NL 表紙の写真
ニュースレターの表紙を飾る写真を募集しております。本学会の NL 表紙に相応しい写真がございましたら是非お寄せください。（写真は、会員の皆様ご自身でお撮りになったもの、または版権をお持ちの写真に限ります。また、写真内容が法令に触れないようご配慮ください。）

# 支部ニュース

## 東北支部

（支部長 會澤 まりえ）

東北支部を立ち上げてから 29 年目になりましたが、この度再び東北支部長を務めることになりました會澤です。本支部は来年 30 周年を迎えます。人数は少なくとも研究会はしっかり続けていこうという当初の志は今でも変わりありません。

さて、東北支部では 2021 年度定例研究会を 3 月 13 日（日）にオンラインで開催いたしました。今回は宮曽根美香先生（東北工業大学)、會澤まりえ（尚絅学院大学）、小島正美先生・宮曽根美香先生（東北工業大学)、川内規会先生（青森県立保健大学）による研究発表の後、「オンラインコミュニケーションの可能性と課題」と題して参加者全員でラウンドテーブル・ディスカッションを行いました。現在のオンラインをベースとしたコミュニケーションのあり方、その影響を受け社会がどのように変化しつつあるか、それを踏まえ、私たちコミュニケーション研究者・教育者が、何を「問題」と定義し、同時にどのように自分たちの「基準」をシフトチェンジしていくべきなのかといった大変興味深いディスカッションとなりました。なお、詳しい定例会のプログラムや報告は支部ブログで紹介しております。支部ホームページに進みますとリンクが貼ってありますので、お時間がある時に是非ご覧ください。

## 中部支部

（支部長 森泉 哲）

支部大会開催報告

2022 年 3 月 5 日（土）14：00～17：00 に支部大会をオンラインにて実施しました。今回は、「多文化社会×ジャーナリズム」という視点から、名古屋のテレビ局の一つである中部日本放送（CBC）の制作に携わる難波将司氏をお招きし、ご講演いただきました。まずは、氏が手がけたドキュメンタリー映像「ボーダー 心のままに生きる「性」」（2016 年）を視聴し、その後、その時の苦労話や現在どのような展開になっているのかお話いただきました。法律などの問題もありながら、性の多様性に関して問題提起を行っているお話には説得力があり、どう報道するのかという観点、どのような関係性を構築するのかという観点など、多様なコミュニケーションの視点から検討できたのではないかと思います。

新支部運営体制

支部大会に先立ち当日 13:00 より支部運営委員会を開催し、2022 年度からの体制が以下のように決まりました。

支部長
毛利　雅子（名古屋市立大学）

運営委員（企画）
宮崎　新（名城大学）

運営委員（企画）
谷口　紀仁（名古屋大学）

運営委員（広報：ニューズレター）
平田　亜紀（常盤大学）

運営委員（広報：ウェブサイト）
佐藤　良子（東海大学（台湾））

運営委員（会計）
福本　明子（愛知淑徳大学）

運営委員（会計監査）
森泉　哲（南山大学）

支部長として至らぬ点も多々ありましたが、支えていただきありがとうございました。新体制で毛利支部長の下、ますます中部支部の活動が活発になっていくことを祈念しております。

# 関西支部

（支部長 小山 哲春）

関西支部では、2021 年度関西支部春季研究会を 2022 年 3 月 6 日（土）にオンライン（Zoom）で開催しました。復旦大学（上海）の山本先生を講師にお迎えし、「中国での／とのコミュニケーション」との題で、先生の、日本人として中国で職に就き、また異動する中で、多くの親密な人間関係を構築していかれたご経験やその背景にあった要因についてお話しいただいた後、現在日本の大学院で研究に取り組まれている中国からの留学大学院生御三方の研究発表を聞き、さまざまな立場からの意見を交換する機会となりました。今回の大会参加者は、関西支部以外の皆様や非会員の皆様も含め、延べ 15 名のご参加をいただきました。

2022 年 3 月 6 日（土曜）13:00～

基調講演：
「中国での／とのコミュニケーション」
山本 幸正 先生
（復旦大学外文学院日語語言文学系 副教授）

研究発表：
① 「テレビの／に映った「裏領域」をめぐって
——NHK『中学生日記』のメディア論——」
王 令薇 (オウ レイビ)
（京都大学 大学院教育学研究科）

② 「『草枕』4 冊の中国語訳本についての分析:
異文化コミュニケーションの視点から」
于 上清（ウ ジョウセイ）
（関西大学 大学院外国語教育学研究科）

③ 「日中貿易におけるコミュニケーション摩擦:
日本人と中国人ビジネスパーソンへのインタビューから」
賈　秋爽（カ シュウソウ）
（関西大学 大学院外国語教育学研究科）

新支部運営体制
研究会前に支部運営委員会を開催し、2022 年度からの運営委員が以下のように決まりました。2 年間、どうぞよろしくお願いいたします。

支部長
小山 哲春（京都ノートルダム女子大学）
運営委員
守崎 誠一　（関西大学）
日高 勝之　（立命館大学）
森口 稔　（京都外国語大学）
野島 晃子　（平安女学院大学）

関西支部では、2022 年度支部大会を 2022 年 11 月に開催予定です。詳細が決まりましたら HP、NL 等でご案内いたしますので、皆様是非ご参加ください。

# 中国・四国支部

（支部長 谷口 直隆）

中国・四国支部では、2022 年 3 月 13 日（日）に第 24 回支部大会をオンラインで開催いたしました。
大会テーマ：コミュニケーションとオンライン
プログラム：

1．研究発表

①谷口直隆(広島修道大学)「大学生のメールコミュニケーションにおける返信についての予備的研究 ―LINE や Instagram 及び Gmail をめぐって―」

②脇忠幸(福山大学)「Web 面接において 大学生に求められる「能力」と現代社会」

2．ラウンドテーブル

「中国・四国支部の現在とこれから」

大会テーマとしましたオンラインでのコミュニケーションは、新型コロナウイルスの影響で量的には確かに増加しました。しかし、それはコロナウイルスの影響で突然現れたものではなく、それより前から身近に行われていたものでもあります。今回の研究発表では、大学生のオンラインコミュニケーションに関わるツールや実態、言説などについての発表が行われました。質疑応答の時間には参加者全員から発言があり、活発な意見交流や情報の交換が行われました。研究発表に続くラウンドテーブルでは、第 23 回・第 24 回支部大会のオンライン開催も踏まえ、今後の支部大会の活動をどのような内容で、どのような方法で行っていくべきか、意見交換とディスカッションを行いました。2022 年度は、今回のラウンドテーブルでの議論内容も踏まえて支部の運営・活動を模索・試行していきます。

## 九州支部

（支部長 吉武 正樹）

戦争で最も古い私の記憶は、イラン・イラク戦争です。「似た名前の国がケンカしている」くらいのリアリティしかありませんでしたが。そんな私が戦争を最も身近に感じたのが、湾岸戦争です。普段通り大学の学食で友人らとランチを食べながら、その最中にも中東ともつながるこの空でミサイルが飛び交っているという事実がなんとも不気味でした。CNN による現地からのライブ放送やパトリオットミサイル発射の映像を目にするにつれ、日常に恐ろしい影が忍び込んだような不安感や恐怖を抱いたことを覚えています。そして、この原稿を書いている 2022 年春、私たちはロシアによるウクライナ侵攻を目撃しています。戦争で起こりうるあらゆる残虐的行為に打ちひしがれるとともに、日本の地政学的な位置づけを否が応でも意識せざるを得ません。このような事態にあり、コミュニケーション研究者として何ができるのか。悩む日々が続いています。

さて、2022 年度が始まりました。早速、今年度の支部大会について運営委員会にて協議しました。対面開催への道も模索しましたが、さまざまな角度から議論した結果、今年度もオンラインで開催することに決定しました。１回目は研究発表のみでしたが、昨年度はラウンド・テーブルを設け、交流の機会をつくりました。「転んでもただでは起きぬ九州支部」（支部 NL35、36 号より）としては、今年度はさらにもう一歩前に進むべく、外部講師をお招きすることを計画しています。詳細がわかりましたら、ご連絡いたします。期待してお待ちください。

支部紀要『九州コミュニケーション研究』第 19 号が 11 月末に出たばかりですが、さっそく第 20 号に向けて始動しています。同時に、昨年度の支部大会とラウンド・テーブルのテーマ「コロナ禍における教育」に絡めた特別企画も掲載予定です。企画はだいぶ遅れていますが、急ピッチで進めていきます。

最後に、『九州支部ニューズレター』No.38 が３月に発行され、新しい URL に異動した九州支部 HP に掲載されています（http://kyushu.jca1971.com/）。私のだらだらと長い駄文はよいとして、支部大会の報告や大学院生お二人からのメッセージ、そして、図書紹介３篇が掲載された、相変わらず内容的に充実したニューズレターになっています。お時間あるときに、HP をのぞいてみてください。あ、やっぱり、私の駄文もぜひお読みください。

九州支部長を仰せつかって３年。任期もあと１年となりました。お世辞にも大した仕事を成した

とは言えませんが、今年度末に九州支部のよき伝統というバトンを次の支部長に無事に渡せるよう、この１年も自分なりに務めてまいりたいと思っています。あと一年、お付き合いくださいますようお願い申し上げます<(_=_)>。

連絡先
〒162-0801
東京都新宿区山吹町 358-5　アカデミーセンター
日本コミュニケーション学会事務局
Tel: 03-6824-9372
Fax: 03-5227-8631
jcom-post[@を入れる]bunken.co.jp

# マイページ登録のお願い

日本コミュニケーション学会 広報局

1. マイページの利用開始について

マイページでは「会費納入状況の確認」「会員情報の検索」「会員情報の変更・確認」などができます。新しい HP の右上のバナーからログインできますので、できるだけ早い時期にアクセスしていただいて、記載内容の確認・登録・更新をお願いいたします。マイページへのアクセスに必要な ID とパスワードは、年会費の請求書と一緒にお送りしております。「お振り込みに関するご注意」の欄に〈マイページのご案内〉がありますのでご覧ください。もしこの用紙を紛失なさった場合には、日本コミュニケーション学会事務局（以下「学会事務局」とする）までお問い合わせください。

問い合わせ先：　日本コミュニケーション学会事務局

jcom-post[@を入れる]bunken.co.jp

2. 住所等変更届のお願い

住所や所属が変更になった場合には次のいずれかの方法で手続きをしてください。

（1）日本コミュニケーション学会 HP にある「マイページ」にアクセスし「会員情報の変更」を選択して必要事項を更新してください。メールアドレスの更新も「会員情報の変更」内で行うことができます。

（2）学会事務局までメール、郵送、ファックスのいずれかでご連絡ください。

## 編集後記

ニュースレター担当として２年間務めさせていただきました。少しでも良いものにしようと、フォントを新しくしたり、デザインを変化させてみたりと、工夫を試みましたがいかがでしたでしょうか。それに加え『私にとってコミュニケーション学とは』という企画を立ち上げ、先生個人のコミュニケーション学との向き合い方を知ることにより、コミュニケーション学会のアイデンティティを模索したいと考えておりました。途中、執筆者を探すことに苦労し、『なんでこんな企画を考案してしまったのだ』と過去の自分を呪いましたが、結果として素晴らしい執筆者の方々に恵まれ、今となってはやって良かったと思っております。みなさま快く引き受けてくださり、どうもありがとうございました。これまでの記事を読み、一つ面白いと思ったことは、先生方が長年専門とされている領域との最初の出会いは『たまたまだった』『それしかやれなかった』といったような『偶然性』や『現実性』の要素が大きかったということです。『最初から最後までその領域一筋だった』といったものは少なかったと記憶しています。自分の専門領域に迷子になっている私としては、まずは目の前の『やれること』『やるべきこと』を地道にちゃんとやろうと、初心に返ることができ、大きな学びとなりました。

２年間、本当にどうもありがとうございました。この仕事を通してたくさんの方々とコミュニケーションをとることができたのは、私にとって本当に大きな財産となりました。少々寂しい気もしますが、またみなさまと一緒に何らかの形でお仕事できますことを楽しみにしております。

ちなみに、後任はまた私です。また２年間どうぞよろしくお願いいたします。

広報局 ニュースレター担当 今井達也

表紙写真提供：平田 淳 様